

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272000235		
法人名	有限会社 慈恵会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	長崎県対馬市美津島町根緒7-8		
自己評価作成日	平成22年11月25日	評価結果市町村受理日	平成23年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成23年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、自宅で暮らしているような家庭的な環境づくりと家庭的なケア 2、出来る事を伸ばす自立支援に向けたケア 3、施設全体(内・外)の環境美化 入居者が安心とやすらぎの持てる空間と家庭的な生活環境作りを実施しながら、尊厳ある暮らしができるよう日々努力している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム全室海が見え、広い敷地のホームは穏やかな環境である。「感謝・奉仕・敬い」という支援の基本は職員の中にしっかりと根付いている。職員は穏やかに利用者へ接し、利用者の笑顔に連鎖している。そのために職員は介護計画をしっかりと把握しており、日々の記録に介護計画実施状況が確認できるように的確に文章化され、チームケアが実現している。記録は家族へも伝えられ家族の安心にもつながっている。申し送りやミーティングでは利用一人一人の状況変化の情報を共有している。また職員は外部評価をもとに業務改善に向け積極的に情報収集、意見交換を行っている。利用者にとってのやすらぎの場となっているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感謝・奉仕・敬いの心を理念とし、施設全体で日々努力し実践につなげている。	「感謝、奉仕、敬いの心」を開設時からの理念とし、職員会議の中で、常に代表より理念についての話がある。特に敬いの心を持ち、利用者に接することに重点を置き、実践に繋がっている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年、数回のボランティア等の受け入れを行いできるだけ地域の皆さんとの交流の機会が持てるよう努力している。	ホームの行事に地域ボランティアの踊りや手品など受け入れている。認知症家族の会や民生委員がホームの見学に訪れ相談や意見交換をするなど、地域との交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人への積極的な取り組みは行っていない。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っていない。	地区の各方面からの参加者による意見交換は、事業所のサービス向上や、地域の理解と支援を得るためにも必要であることから、まずは1回目を開催し、更に年6回の開催に向け取り組むことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や、知人である保健師、包括支援センターのケアマネ等から色々な情報を得たり、意見交換したりと色々な方面からの協力を得たりして良い関係は築けている。	市担当課や包括支援センターの職員とは、相談や意見交換を行っている。市の依頼を受け、職員が認知症家族の会の勉強会で在宅ケアの対応についての講師をするなど、協力関係が築かれている。また権利擁護事業の利用もある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は正しく理解でき、施設全体で取り組んでおり、常に心がけている事である。	身体拘束をしないケアを再確認することも含め、マニュアルを整備している。言葉での制止が拘束に繋がることを意識し、ケース会議で話し合われている。玄関の施錠は夜間のみで、利用者は自由に入出し、職員が見守り対応している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で注意をし、防止に常に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できるよう制度について学ぶ機会をもちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解と納得は得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見や要望が記入できる用紙を置いており周知は出来ていると思う。	家族の訪問が多いため、職員は家族と気軽に話しており、遠方の家族へは電話で要望など聞いている。家族から「法事に帰宅させて欲しい」「おしゃれ好きなのでこれを着用させて欲しい」と服を持参されるなど家族の意見を支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、月始めにスタッフ会議(出来ない月もある)を行い色々な意見や提案を取り入れ反映させているといえる。	毎朝のミーティングでの職員の意見は、ホーム長や代表に届きやすく、年末、年始の勤務シフトの変更や、研修受講、備品の購入などの提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を踏まえたうえで、やりがいや向上心が持てるよう働きやすい職場環境となるようできる限りの配慮は行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や、研修への積極的な参加を促し自意識の向上が持てるよう助言など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設での取り組みとしては出来てはいるが、個々に交流を持ち意見や情報を得ていると聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状態を理解し、日々の生活状態や行動に目を向けながら、受け入れて頂けるよう深い関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	深く、何度も話し合いを重ね信頼関係が築けるよう努力し出来るだけ要望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者や家族の意向や思いを聴き、状況を確認し必要とする支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、楽しみを共有したり、喜びを分かち合ったり、又個別にお部屋でお話したりと暮らしの中で良好な関係は出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の方も多く、それぞれの思いに寄り添いながら、個々の情報を共有する事で深い話ができたりお互いに支え合う信頼関係は築いていると言える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店への買い物、行きたい場所へのドライブ、話したい人へのTEL等出来る限りの支援は行っている。	利用者は行きつけの理美容室に通うことを楽しみにしており、職員が同行支援している。馴染みの店への買い物や自宅周辺のドライブで近所の人と会ったり、友人の訪問もあり、馴染みの人と場所が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や関わりをスタッフは十分把握しており、状況に応じた場面作りや良い関係が保てるよう見守りや調整しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたり、他施設へ入所された方への面会やご家族の方からの相談等にも応じたりして、良好な関係が保たれているといえる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動、表情から本人の希望や思いをくみ取り対応している。困難なケースは家族から細かい情報を得て本人本位になるよう努力している。	職員は、利用者の生活歴を家族に詳しく聞き、把握しており、利用者と一緒に話することで、意向を汲み取っている。耳が不自由な人には耳元で話したり、利用者が職員の口元の動きから読み取り、意思疎通を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境など本人や家族から情報を得て把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の勤務記録、個々のケース記録、申し送り簿、ノートにて詳細に記録しておりスタッフ全員充分把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思の伝達ができる人は本人に聞いたり、家族に意向を聞き、カンファレンスでスタッフの意見を取り入れたりして介護計画を作成している。	6ヶ月毎に支援計画の見直しが行われている。本人、家族の要望は申し送りノートに記入され、サービス担当者会議で検討され、要望を反映している。状況の変化や入退院後は、必要に応じ変更されている。ケアプランは家族に説明し、同意を得ており、実施状況は、個々のケース記録に詳細に記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活面、精神面全て日々の暮らしの中での気づきや出来事を個別に詳細に記録する事で情報を共有し、プランの見直し等にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その時のニーズに対応できるよう、家族や本人の希望に添うサービスは柔軟に対応し支援はできているといえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心した生活、楽しみが持てる生活ができるよう、ボランティアや民生委員の方に協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医に毎月定期受診が出来ている。状態の変化や相談も充分に出来、適切な指示や処方が受けられている。	かかりつけ医は利用者、家族の希望を聞き、職員が通院介助し継続されている。薬の変更などがあれば家族へ報告している。状況によっては家族に同行してもらい医師の説明を受けてもらっている。協力医との連携体制も取れており適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師はいないが、受診の際には個別の受診ノートがあり詳細に記録して誰が介護で同行してもわかるようになっており、適切な情報は提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は情報を詳細に提供し、主治医や看護師と密に連絡を取り、家族とも情報交換をしながら退院や今後に向けての話し合いは充分に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた話し合いは、早い段階から家族や主治医と細かく連絡をとり充分な話し合いを行い、今後の方針を共有している。	ホームでの重度化・終末期に向けた支援、看取り体制は重要事項説明書に記載され、入居時に説明を行い同意を得ている。状況に応じて医師、家族と共に十分に話し合いを行い、ホームはできる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の方法はスタッフルームの壁一面に貼ってあり、何時でも対応できるよう日頃から目を通している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に於いて、年2回の消火・避難訓練を実施する事としているが、今年度は現段階で実施できていない。早急に年度内には実施の予定である。	避難経路図、連絡体制網、マニュアルは整っているが、今年度の避難訓練は実施されていない。職員からも災害対策について訓練の実施を望む声が上がっている。	火災のみならず自然災害など、緊急時に迅速な行動を取れるよう定期的な訓練が必要である。職員からも要望があることから、早期に実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員、常に心がけている対応である。	利用者との会話が馴れ合いにならないよう、敬語を基本としている。トイレ誘導の声掛けは、他の利用者に気づかれないよう離れた場所で行っている。利用者の悩みなどを聞く時には、居室で傾聴している。ミーティングは利用者名がわからないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた言葉かけや話し方で日々のコミュニケーションを図り自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースでゆったりと過ごして頂けるよう、その人の希望に沿った支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容室やお化粧品等、外出時には個々の好みに応じたおしゃれができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時に、入居者に食べたい物を聞いたり、彩りや季節の物を取り入れできるだけ浴えるよう工夫している。又可能な方は下膳や配膳も手伝って頂き能力に応じた支援を行っている。	利用者の嗜好を献立に取り入れている。利用者も皮むきや下膳など手伝っており、利用者の咀嚼やその日の体調に合わせて盛り付けを行っている。ホーム畑の野菜を使い季節を取り入れ、敬老会や記念日には外出に出たり、誕生会など食事を楽しむ支援に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎食の食事摂取量、水分摂取量を記録し充分確保できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは施設全体でも取り組んでいる事であり、毎食後のケアは入居者全員その人に応じた口腔ケアを習慣として実践している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便のチェックは毎日の業務としている。その人の排泄パターンは職員全員把握しており、個々に合わせた誘導や声かけを行っている。	排泄チェック表を作成し、時間誘導など個別に行い、パッド利用軽減に向けた取り組みを行っている。その結果、リハビリパンツから布パンツなど軽減事例もある。夜間は利用者ごとの尿意の有無を検討しトイレ誘導やパッドで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食事での食物繊維摂取など、出来るだけ薬での排便をなくす工夫をし、便秘にならない予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日、時間は決まってはいるが、その人の体調や気分に合わせて対応は柔軟に行っている。ゆっくりと穏やかな入浴を心がけている。	入浴は週3回、午後に行われている。利用者の要望や状況に応じシャワー浴などの対応をしており、利用者の希望に沿って同性介助も可能である。職員は3人体制で入浴介助をし、車椅子利用者も浴槽に浸かり入浴を楽しめるよう工夫している。ゆず湯や菖蒲湯、好みの湯温など楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時々状況に応じてながら、日中の活動を促したりして、夜間ゆったり睡眠はとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルに綴じ、スタッフ全員内容をいつでも把握できる。日々の症状の変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳、下膳、掃除、洗濯物たたみ等、個々の能力に応じた役割や楽しみ、食材の買い出し等での気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら本人の希望や家族の意向に沿えるよう散歩やドライブ、買い物等にお連れしている。	ホーム畑の草むしりや、敷地内の散歩を行っている。また、利用者の要望で買い物に出かけたり、気分展開にドライブを行ったり、家族との外出も支援している。花見や初詣など車椅子利用者も出かけられるところを検討し、全員で出かけるように工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で管理している人はいないが、買い物などに行った際には可能な限りのサポートを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花々や、四季を通しての観葉植物、壁飾り等に配慮し、季節を感じてもらえ又居心地よく過ごして頂けるような空間作りを常に心がけている。	リビングなどは職員が毎朝清掃し、換気も適宜行い、時間に応じてロールカーテンで光の調節も配慮している。イベント時の写真や季節の飾り付けで利用者が楽しめる工夫をしており、ソファや食卓の配置は利用者の自立歩行に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースにはソファを配置し皆さんがゆったりとくつろげる空間を設け、入居者同士で楽しく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ馴染みの家具や使い慣れた日用品等を持参して頂き、違和感なく落ち着いて過ごして頂けるよう工夫している。	筆筒や位牌、テレビなど利用者の馴染みの物が持ち込まれている。ベッドや座椅子の配置は、歩行状況を検討しながら、居心地よく過ごせるよう配慮している。清掃は職員が行うが、利用者も手伝っている。カーペットを敷いたり、写真や飾り付けも行われており、本人の居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その状況にあった環境整備や混乱を避ける為の張り紙など、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		